

以下の通り表記に誤りがありました。ご迷惑をおかけしましたことを訂正してお詫び申し上げます。

該当刷ページ	該当箇所	【誤】	【正】
初版 57ページ	注57の 15行目以降	シャクガモドキ科が蝶とされてきたのは、この科がセセリチョウ科よりも、他のチョウ5科により近縁だと考えられていたためです。しかし最近の研究では、セセリチョウ科のほうが残りの5科により近縁で、シャクガモドキ科は、より遠縁であると考えられるようになりました。したがって、シャクガモドキ科を蝶とする理由はなくなってしまったような気がします。というわけで、私のなかではシャクガモドキ科は蛾です。蛾にしか見えません。いずれにしても、どれを蝶と呼び、どれを蛾と呼ぶのかは、学術的にはあまり本質的な話ではないのです。	シャクガモドキ科が蝶とされているのは、この科がチョウ目の系統樹のなかで、他のチョウ6科の内側に位置していると考えられているからです。じつは2005年に、シャクガモドキ科が系統樹のなかで他のチョウ6科の外側に位置していると主張する論文が発表され、この科を蝶とする根拠が薄らいだかに思われました。しかし、2014年に発表された論文が、詳細な遺伝情報にもとづいて、シャクガモドキ科はアゲハチョウ科よりも他のチョウ5科と近縁であると主張したことで、シャクガモドキ科は、あらためて蝶とみなされるようになりました。
初版 109～111 ページ	4か所	虫瘿果	虫瘿花
初版 178ページ	後ろから4行目	(かんふかい)	(かふんかい)